

工学部

I	教育水準	教育 11-2
II	質の向上度	教育 11-5

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、当学部は7学科からなり、それらは3コースに分属している。適切な数の教員が配置され、各学科において、昼間コース、夜間主コースの専門教育を行っている。また、専門基礎科目の教育を担当する工学基礎教育センター、実習や研究支援を行う総合技術センター、教育方法の開発や教育環境整備を進める創成学習開発センター、u ラーニングセンターを設置するなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、教育方法の継続的改善を進めるための評価システムと改善実行システムが円滑に機能し、成果を上げている。また7学科中6学科が日本技術者教育認定機構（JABEE）によって教育プログラムの認定を受けるなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 教育内容

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「教育課程の編成」については、同学部の教育課程は、全学共通教育と専門教育からなっており、卒業要件としては前者が 41～45 単位、後者が 86～90 単位が要求されている。

また、JABEE による教育プログラムの認定も受けており、適切な教育課程を編成するなど優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、授業アンケート及び卒業生・雇用主アンケートの結果、外部評価会議、参与会議、自己点検・評価委員会の意見に基づき、教育プログラムの改善が毎年進められている。また、技術経営に関する科目、実務者による講義、u ラーニングを用いた特徴ある授業を行うなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内容は、工学部が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えようような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

3. 教育方法

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、教養教育から専門基礎、さらに応用へと円滑に学習できる教育課程が組まれている。学年ごとに進級規程を設け、学生の学習成果の確認を厳密に行うとともに、シラバスの整備や u ラーニングの拡充による学生の学習支援が進められている。学生実習などへはティーチング・アシスタント（TA）が配置され、学生指導を強化している。また、講義の中に演習を取り入れ、学生の理解度を高める授業を行うなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、単位の上制限を定めて学習時間を確保するとともに、早期卒業、飛び級の規程を定めて学習意欲の向上を図っている。専門教育による深い興味を持ち、自ら学ぶ姿勢を作るために、各学科において創成科目の授業を行うなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

4. 学業の成果

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、90%の学生が4年間で卒業し、56%の学生が大学院に進学している。また、JABEE 認定教育プログラムであることから、教育目標に掲げられた能力を身に付けていると判断できるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、4年生へのアンケート結果では、現在受けている教育で将来の希望が実現できそうであると約 67%の学生が答えており、大学教育全体の満足度を 100 点満点で 60 点以上とした学生は約 87%であり、教育の成果・効果があったことを検証するなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

5. 進路・就職の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、卒業生のうち就職希望の学生のほとんどは技術系専門職として就職し、56%の学生が大学院に進学している。夜間主コースの就職率は約80%であるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「関係者からの評価」については、卒業生や就職先の雇用主アンケートにて、社会の要請や目的に沿った教育を行っているとして評価されるなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、工学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、工学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が2件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が1件であった。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間終了時における判定として確定する。